

入院・入所透析患者におけるリン吸着薬投与の重要性

長崎腎病院

○川口唯 山下万紀子 畠山今日子 中島さゆり 川口利江 吉野秀章
小串百合子 草刈祥子 船越哲 橋口純一郎 原田孝司

【背景・目的】

高齢透析患者におけるリンのコントロールは、栄養状態も保持せねばならず注意を要する。今回我々は、入院・入所中の患者の身体的因子と、リン吸着薬状況との関連を検討した。

【対象・方法】

当院及び関連特養施設入所中の患者 81 名のうち、リン吸着薬内服群 (PB 群) 患者は 25 名であり、非内服群と PB 群の骨関連因子・栄養状態・ADL (バーサルインデックス) 等を比較検討した。

【結果】

非内服群と PB 群において平均年齢・透析歴・糖尿病率に差はなかった。適正リン値 (3.5-6.0mg/dL) 率は、非内服群で 50%、PB 群で 76%と、PB 群で有意に高かった。平均 PTH は有意差はないが、PB 群で高い傾向にあった。G N R I と ADL は、PB 群で有意に高かった。

【考察】

今回の検証では、リンのコントロールは高齢の入院・入所者であっても重要で、リン吸着薬の重要性が示唆された。